



第59回 症例検討会

令和元年
11月5日(火)



No.

23



北海道病院だより

病院理念

地域の人々を中心とした
質の高い医療・介護を提供し、
地域から信頼される病院に
なります。

基本方針

- 1.一人一人の権利を尊重し、人間愛を基調とした医療・介護を行います。
- 2.安全を第一に説明と同意に基づく医療・介護を行います。
- 3.地域との連携を推進し、求められる医療・介護を行います。
- 4.地域の健康増進をめざし、保健予防活動を推進します。
- 5.地域医療機能の推進をもって医療・医学の発展に貢献します。

慢性腎臓病とは



腎・膠原病センター 楠 由宏

腎臓は背中の両側にひとつずつある拳大程度の大きさの臓器であり、その主な働きは尿を作ることです。

摂取した余分な水分を尿として排泄し、同時に体内で産生された毒素や余分なミネラルなどの排泄も行っています。また、尿を作る働きの他にも赤血球を作る働きの手助けや、カルシウムの吸収、血圧の調整などの働きも持っています。

慢性腎臓病 (Chronic Kidney Disease: CKD) とは、慢性に腎臓の機能が悪くなる状態のことを表しています。原因は様々であり、以前は慢性糸球体腎炎という疾患が一番多かったのですが、近年は食生活などの変化もあり糖尿病による糖尿病性腎症や高血圧や脂質異常症からくる動脈硬化が原因の腎硬化症などの割合が増えてきております。

腎臓の機能がかなり悪くなると体に余分な水がたまって浮腫がでてきたり、貧血になったり、毒素が溜まって吐き気や頭痛が起こることもあります。

ただ、比較的進行しないと症状が現れてこないことも腎臓病の特徴であり、症状が出てきたときには既に腎機能の廃絶が免れないところまで進行してしまっていることも度々です。

腎機能が廃絶すると最終的には透析、もしくは腎移植が必要になるため、CKD予防ならびに早期発見、早期介入が重要となります。

また、透析医療費は年間1兆6千万円で本邦の

年間総医療費の4%程度を占めると言われており、医療経済の面からもCKD対策は非常に重要です。

最近日本ではCKD対策に本腰を入れ始めており、2017年12月に腎疾患対策検討会が開催され、2018年7月に腎疾患対策検討会報告書が取りまとめられました。その中では今後実践すべき取り組みなどが具体的に整理されており、さらに2028年までに年間新規透析導入患者数を35,000人以下に減少させる(2017年は40,959人)という成果目標も設定されました。

現在は日本腎臓病協会という組織が先導役となり各地方を細分化してそれぞれの地区にて担当者を決めてCKDの普及・啓発活動を行っております。

当院は札幌市の豊平地区を担当しており、現在はかかりつけ医の先生方やコメディカルへの講演が主な活動となっておりますが、今後は市民講座や院内講演など積極的に患者様を対象としたCKDの啓発活動も進めていきたいと考えています。

腎機能障害などを含め腎臓に関して気になることがあればいつでもご相談下さい。

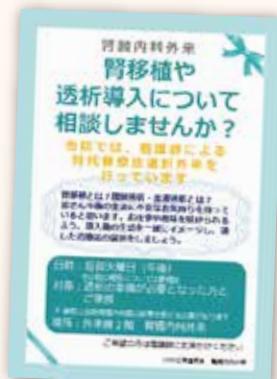
看護師が担当する 【腎代替療法選択外来】を 開始しました。

透析室 師長 花岡 亜紀

当院の透析室看護師は、腎臓内科外来の診察介助も担当しています。外来の時点で腎代替療法に移行しそうな患者さんの情報をスタッフ間で共有し、支援してきました。腎代替療法が必要になる、と言われた患者さんからは、「どうしたらよいかわからない、不安」「もっと説明が聞きたい」などの声が聞かれました。外来診療の限られた時間の中では、腎代替療法それぞれのメリット、デメリットを良く理解して治療方法を選択することは難しいと思います。また、病状が進行しているにも関わらず、腎代替療法の受け止めができないために治療が先延ばしになり、生命が危機的状態になって緊急血液透析に至る患者さんも少なくありません。患者さんがご自分の病状を受け止め、治療法の選択ができるように支援することを目的とし、2019年5月より腎臓内科外来看護師が担当する腎代替療法選択外来を開始しました。

透析療法は患者さんのライフスタイルに大きな影響を及ぼす治療法であり、本人はもちろん、ご家族のご理解とご協力が必要です。選択外来は、医師からの指示があつた方、ご本人やご家族が希望する方、看護師がより詳しい説明が必要と判断した方などを対象にしています。現在は火曜日の午後、1患者1回30分～1時間で看護師との面談を行っています。

パンフレットを用いて血液透析、腹膜透析、腎移植それぞれの治療法について説明します。また、患者さんのライフスタイルを把握し、選択した治療法によって具体的にどのようなことが変化するのかなどを一緒に考えていきます。興味を持った治療法については更に詳しく説明し、状況に応じて透析室の見学や腹膜透析のデモンストレーションなどを計画します。



現在、2019年5月～8月まで8人の患者さんを対象に腎代替療法選択外来を実施してきました。まだ件数は少ないですが、患者さんからは「話しが聞けて良かった」「治療方法を選択することが出来た」などご好評をいただいております。腎代替療法選択外来は当院腎臓内科医師の指示のもと、ご予約いただくことが可能です。より多くの患者さんが安心して治療を選択していただけるよう支援していくことが目標です。

なかのしま健康フェアを開催しました。

健康管理センター 管理課長補佐 松谷 英二

この健康フェアは、身長体重や血圧測定、視力測定のほか、普段なかなか検査することのできない血管年齢測定や骨密度測定、血糖値測定などを無料で検査できるイベントです。各種測定以外にもお薬相談や栄養相談、健康相談、介護福祉相談、認知症相談など、併設の健康管理センターと介護老人保健施設と協力し、様々な相談コーナーを設けたほか、今年は当院の看護師によるAED講習会も行いました。

このイベントには毎年外来患者さんをはじめ、近隣の住民の方々に参加していただき、今年も両日あわせて215名の方々に参加していただきました。

また、健康フェアにあわせて地域講演会も両日開催しました。8日は『健康寿命のための「食べる」「噛む」「動く』』と題して、当院の瀧川主任管理栄養士、城宝主任言語聴覚士、館リハビリ部士長が講話を行い、約20名の方にご参加いただき、栄養と咀嚼、運動の重要性について講話を行いました。9日は北海道大学病院消化器外科学教室I講師の本間重紀先生を講師に、『知って欲しい大腸がんのこと』と題した講話を行いました。約50名の皆様に参加いただき、実際の手術の動画等も交えて大腸がんの治療法等について、わかりやすく講話をを行っていただき、講話後にはお楽しみ抽選会も行いました。

なかのしま健康フェアは平成16年から行っているイベントで、今回で27回目の開催となります。来年以降も地域の方々に喜んでいただけるようなイベントとして開催していきたいと考えています。

当院グリーンモールを会場に開催しました。
院内行事「なかのしま健康フェア」を、
毎年恒例となつていて
10月8日と9日の2日間、

地域講演会について

経理課 内田 利樹

10月8日、9日に地域講演会を行いました。 今回は院内イベント「健康フェア」に合わせて 2日にわたって開催しました。

1日目は『健康寿命のための「食べる」・「噛む」・「動く」』をテーマに、当院の瀧川主任管理栄養士、城宝主任言語聴覚士、館リハビリテーション部土長が講演を行いました。

健康寿命を延ばすために、普段の生活からできることを中心に低栄養にならないための食事、しつかり噛んで安全な状態で飲み込むこと、サルコペニアなどについてそれぞれの観点からお話ししていました。食べることができなくなると低栄養状態になり、体力・筋肉量が減少、活動量も減少し、食事量が減少、栄養も不足、、、というように悪循環へつながり、そのことによって、転倒による怪我や病気になるリスクが高くなるそうです。日常生活に密接なテーマだったこともあり、参加されたみなさんはメモを取るなど、非常に興味を持っていた様子でした。

2日目は北海道大学病院消化器外科学教室Iの

本間重紀先生をお招きし、『知ってほしい大腸がんのこと』と題して講演をしていただきました。講演では、大腸がんの基本的なことや外科的治療について、普段見ることのできない実際の画像や映像を使ってお話をされました。大腸がんの治療では、外科手術が唯一の根治治療で、近年は体に影響の少ない内視鏡下での手術が多く行われています。内視鏡手術の高い技術の基準として、日本内視鏡外科学会による技術認定制度があり、北大病院消化器外科Iには本間先生をはじめ数名が在籍しているそうです(当院では正村医師が取得)。万が一大腸がんになった場合には、日本の医療制度では、行きたい病院を選ぶことができる設備や人が整った病院での治療を勧めました。大腸がんはがんの中でも罹患者数が多いそうで、参加された方々は貴重なお話を聞けたのではないかと思います。



第6回

豊平がん緩和研究会が開催されました

腫瘍センター兼総合支援センター 平田 妃奈子

今回は、10月16日（水）当院の講堂におきまして、北里大学医学部 新世紀医療開発センター 疼痛学教授 金井昭文先生をお招きし「がん患者に対するオピオイド鎮痛薬を再考する」という題目でオピオイド鎮痛薬についてご講演いただきました。参加者は40名で院内25名、院外15名がご参加下さいました。

薬物耐性や依存のしくみ、オピオイドを增量しても痛みが増強することについてなど医療用麻薬の専門的な学びを深めることができました。「痛みは本人しかわからないので、ちゃんと評価して痛み止めを使用すること、そうしないと余計痛みを悪化させるだけ」というお話が印象的だったという感想もあり、評価指標や鎮痛剤やオピオイド薬の使用法の整備が必要であると実感しました。

私は緩和ケア認定看護師として10年以上前にオピオイドに関する本格的な勉強の機会をいただきましたが、今や使い方など昔とは違い色々な取り組みがされているのだなど改めて自分の知識を振り返る機会となりました。日進月歩で様々なオピオイドが増えてきており、当院では採用していない薬の効果や副作用も抑えていく必要性があることを理解し、とても勉強になりました。

来年はどのような先生との出会いがあるのか、毎回楽しみの会であります。

日頃お世話になっている地域の医療者の皆様におかれましては、ご興味、お時間等ございましたら、是非、ご遠慮なくご参加いただければと思います。



先生をお招きし、研修会を開催しております。

「豊平がん緩和研究会」と題しまして、
北海道がん指定病院である
JCHO北海道病院では、
毎年緩和ケア領域でご活躍する

お知らせ

研修会の実施報告

NST研修 地域研修

日 時 令和元年8月22日(木)

テマ 亜鉛を学ぶ～働きと欠乏の影響～

講 師 ノーベルファーマ(株) 本間 亮介 先生

対 象 医療従事者

参加人数／院外12名、院内57名 合計69名

NST研修 地域研修

日 時 令和元年9月26日(木)

テマ ヨーグルトと健康

講 師 (株)明治 企画管理部コミュニケーション課
参与(食育担当) 有江 泰彦

対 象 福祉、医療従事者

参加人数／院外5名、院内54名 合計59名

第53回 札幌南部呼吸器懇話会

日 時 令和元年10月23日(水) 場 所 当院講堂

「肺結核再訪～心の旅路」

演 著 JCHO北海道病院
副院長・呼吸器センター長 秋山 也寸史

参加人数／院外8名、院内9名 合計17名

第4回 豊平がん化学療法勉強会

日 時 令和元年8月28日(水)

演 著 岡山大学 新医療研究開発センター 臨床研究部
教授 堀田 勝幸 先生

参加人数／院外5名、院内19名 合計24名

第6回 豊平がん緩和研究会

日 時 令和元年10月16日(水)

「がん患者に対するオピオイド鎮痛薬を再考する」

演 著 北里大学医学部 新世紀医療開発センター
疼痛学 教授 金井 昭文 先生

参加人数／院外15名、院内25名 合計40名

第4回 豊平肺癌研究会

日 時 令和元年10月30日(水)

「肺がん治療におけるテセントリック併用療法の実際」

演 著 国立研究開発法人国立がん研究センター東病院
先端医療科／呼吸器内科 医長 葉 清隆 先生

参加人数／院外8名、院内10名 合計18名

第53回 リバーサイド消化器懇話会

日 時 令和元年11月12日(火)

場 所 当院講堂

「新規酸分泌抑制薬の登場によって 変わりゆく逆流性食道炎」

演 著 国立病院機構 函館病院 病院長 加藤 元

参加人数／院外23名、院内20名 合計43名

札幌市医師会豊平区・清田区支部合同 「第59回症例検討会」

日 時 令和元年11月5日(火) 場 所 当院講堂

座 長 JCHO北海道病院 副院長 広瀬 崇興

(1)「化膿性椎間関節炎の2例」

KKR札幌医療センター 整形外科 池 翔太

(2)「当院でのIMRT導入により有害事象の低減が得られた一例」

KKR札幌医療センター 放射線科 後町 俊夫、永倉 久泰

(3)「II型呼吸不全におけるhigh-flow nasal cannula(HFNC)の使用経験」

札幌しらかば台病院 脳神経内科 保月 隆良

座 長 JCHO北海道病院 副院長 数井 啓藏

(4)「下垂体疾患に対する経鼻内視鏡手術」

柏葉脳神経外科病院 脳神経外科 小林 浩之

(5)「抗がん剤治療のやめ時」を考える

札幌清田病院 緩和ケア内科 小池 和彦

(6)「高齢者の下腹部痛の一例」

JCHO北海道病院 放射線診断科 杉浦 充

参加人数／院外19名、院内7名 合計26名

今後の予定

第54回 札幌南部呼吸器懇話会

日 時 令和2年2月19日(水) 場 所 当院講堂

詳細は総合支援センターまでお問い合わせください。

災害救急 指定日

**〈令和元年〉12月3日(火)、12月14日(土)、
〈令和2年〉1月2日(木)、1月23日(木)、2月1日(土)、2月13日(木)**

※災害救急指定日は、やむを得ぬ事情により変更する場合があります。毎日の新聞紙等でご確認ください。

JCHO北海道病院 各科外来診療担当医師

診療科	午前・午後		月	火	水	木	金	
総合診療救急科	午前・午後	内科系	山本 浩平	志田 玄貴	前田 由起子	谷口 菜津子	前田 由起子	
			長井 桂		長井 桂		大江 真司	
	午前・午後	外科系	数井 啓蔵	正村 裕紀	正村 裕紀	数井 啓蔵	数井 啓蔵	
			庄野／酒井／岩崎 (交代診療)(午後)	岩崎 美憲(午後)	庄野／酒井／岩崎 (交代診療)(午後)	酒井 俊彦(午後)	庄野 泰弘(午後)	
循環器内科	午 前		五十嵐 康己	木村 銀河	木村 銀河	木谷 俊介	木村 銀河	
	午 後(診療13:00~)				木村 銀河		木村 銀河	
心臓血管外科	午 前			吉田 俊人				
呼吸器内科	午 前	1診	秋山 也寸史	原田 敏之	原田 敏之	長井 桂	秋山 也寸史	
		2診	水島 亜玲	谷口 菜津子	谷口 菜津子	水島 亜玲	長井 桂	
消化器内科	午 前	1診	古家 乾	古家 乾	古家 乾	森川 賢一	田上／古家(初診)	
		2診	馬場 英	定岡 邦昌	馬場 英	定岡 邦昌	馬場 英	
	午 後(診療14:00~)	3診(予約)	田口 純[化学療法]	合田 智宏[化学療法]	竹内 啓[化学療法]			
腎臓内科	午 前		楠 由宏		関 真秀	楠 由宏	関 真秀	
膠原病内科	午 前(予約)			浄土 智		浄土 智	志田 玄貴	
糖尿病・内分泌内科	午 前	1診		山本 浩平		山本 浩平		
		2診	牧野 圭祐	國崎 哲	牧野 圭祐	國崎 哲	國崎 哲	
	午 後 (予約)	1診		國崎 哲(14:00~)	牧野 圭祐(13:30~)	國崎 哲(14:00~)	國崎 哲(14:00~)	
内科	午 前			大江 真司(予約)	竹内 正	大江 真司(予約)		
小児科	午 前	1診	澤田 博行	大原 夕季	大原 夕季	大原 夕季	澤田 博行	
		2診	椿 淳子	椿 淳子	椿 淳子	椿 淳子	椿 淳子	
	午 後 (診療13:30~)	一般	岡嶋 寛	岡嶋 寛		大原 夕季	中島 泰志	
		慢性外来 (予約)	澤田 博行 [慢性・発達]	椿 淳子 [内分泌]	伏屋 菜穂 [喘息・アレルギー]	中島 泰志 [腎臓]		
					乳児健診(予約)	中久保 佐千子(9:00~) [神経](月2回)	1ヶ月健診(予約) [産婦人科外来]	
外科	午 前	一般	敦賀 陽介	数井 啓蔵	数井 啓蔵	正村 裕紀	正司 裕隆	
		予約	乳がん検診	乳がん検診	乳がん検診	乳がん検診		
	午 後 (診療14:00~)	一般	乳腺外来(予約)	出張医(第1・3週)				
整形外科	午 前	1診	庄野 泰弘	庄野 泰弘	庄野 泰弘		交代診療(10:00~)	
		2診	酒井 俊彦(10:00~)	酒井 俊彦		酒井 俊彦	寺島 理代	
		3診	岩崎 美憲		岩崎 美憲	岩崎 美憲	倉茂 秀星	
泌尿器科	午 前	1診	広瀬/出張医(交代診療)	広瀬 崇興	広瀬 崇興	広瀬 崇興	広瀬 崇興	
		2診	新海 信雄	新海 信雄	新海 信雄	新海 信雄	新海 信雄	
	午 後(診療13:30~)	広瀬/出張医 (交代診療)				広瀬 崇興(予約)		
産婦人科	午 前	1診	山田 俊	佐々木 瑞恵	小田 泰也	小山 貴弘	山田 俊	
		2診	小野寺 康全(初診)	小山 貴弘	小野寺 康全	小田 泰也	小山 貴弘(初診)	
		3診	山村 満恵	小田 泰也(初診)	山村 満恵(初診)	佐々木 瑞恵(初診)	小野寺 康全	
	午 後 (診療14:00~)	助産師外来	助産師外来			助産師外来		
		1診	山田 俊	佐々木 瑞恵	山村 満恵			
		2診	交代診療(初診)	交代診療(初診)	交代診療(初診)	交代診療(初診)	交代診療(産後)	
眼科	午 前	3診	助産師外来	助産師外来	助産師外来	助産師外来	助産師外来	
		1診	藤尾 直樹	藤尾 直樹	藤尾 直樹(予約)	藤尾 直樹	藤尾 直樹	
		2診		高橋 智恵	高橋 智恵		高橋 智恵	
耳鼻咽喉科	午 後(診療14:00~)					藤尾 直樹		
	午 前	1診	保立 裕史	保立 裕史	金谷 健史[紹介・予約のみ]	保立 裕史	保立 裕史	
		2診	太田 亮[予約なし]	太田 亮	交代診療	太田 亮	太田 亮	
	午 後 (診療14:00~)	1診		保立 裕史			保立 裕史	
皮膚科		2診		太田 亮			太田 亮	
	午 前	1診	遠藤 元宏	遠藤 元宏	遠藤 元宏	遠藤 元宏	遠藤 元宏	
		2診	半田 稔也	半田 稔也	半田 稔也	半田 稔也	半田 稔也	
麻酔科(ペインクリニック・予約)	午 前	1診	遠藤 元宏	半田 稔也			遠藤／半田 (交代診療)	
放射線診断科	午 前		杉浦 充			杉浦 充		
禁煙外来(予約)	午 後(診療13:30~)		長井 桂			原田 敏之		

《午前の受付時間》8:00~11:00(診療開始8:45~) 《午後の受付時間》12:30~15:30(診療開始は各診療欄をご覧ください)

担当医師、診療時間について変更になる場合がございます。

病院代表電話 : 011-831-5151 予約変更直通 : 011-831-5489(平日 9:00~16:00)

JCHO北海道病院

〒062-8618 札幌市豊平区中の島1条8丁目3-18

TEL 011-831-5151(病院代表)

URL <http://hokkaido.jcho.go.jp>

<https://www.facebook.com/jchohok>

《医療機関専用：総合支援センター直通》

TEL 0120-515-830 FAX 011-815-1005



↑ QRコード読みで
病院ホームページへ

